

(法第 28 条第 1 項関係様式例)

平成 30 年度事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 沢内伯楽

1 事業の成果

平成 30 年度は、前年度に引き続き、住宅の内部の設備・備品の充実に努めた。家屋の 3 分の 1 を生ハムの製造に使いたいという申し出があり、承認した。

NICE のキャンプ地として、日本人 4 名、外国人 4 名の参加者が宿泊した。

その他、地域の集会や他地域との交流に使用された。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
無主となった古民 家を改修、地域の住 民活動に提供する 事業。	内部の設備・備品の 充実	平成 30 年	現地	述べ 10 人	地域全域	0
	内部の整理、ゴミの 処理	平成 30 年	現地	延べ 10 人	地域全域	0
地域の元気な高齢 者のコミュニティ づくりに関する事 業。	当該年度は実施予 定無し					
地域住民が光ケー ブルでの通信がで きるように技術講 習等に関する事業。	当該年度は実施予 定無し					
潜在する小規模エ ネルギーの開発で、 地域の省エネに貢 献する事業。	当該年度は実施予 定無し					
地域の特産物を育 てて、生活環境の向 上に貢献する事業。	中間山村フォーラ ムの事業に参加 (別紙参照)					0
地域の地理情報を	当該年度は実施予					

解析、住民の将来シナリオ作りへの情報提供する事業。	定無し					
都市および海外と中山間地域の交流に関する事業	NPO 法人 NICE のキャンプ地に西和賀町がなったので、宿泊施設を提供	平成 30 年 8 月	現地	8 人	地域全域	

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
地域への有識者・学術経験者の派遣・講演事業	当該年度は実施予定無し				
パソコン・インターネット IT 機器の導入補助事業	GIS ソフトウェアの試用 ルーターの入替		現地	2 人	
地域の地理情報の収集と提供	当該年度は実施予定無し				

平成30年度 沢内伯楽会計収支決算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人 沢内伯楽

科目	金額(単位：円)		
I. 収入の部			
1. 会費・入会金収入	0		
2. 寄附	60,000		
3. 施設利用料	102,500		
4. 有馬氏小作料	10,328		
5. 雑収入			
2017/04/01 郵貯支払利子	3		
2017/10/01 郵貯支払利子	2		
不明	2,293		
雑収入合計	2,298		
経常収入合計(ア)			175,126
II. 支出の部			
1. 事業費			
		0	
2. 管理費・雑費			
2017/4～2018/3 賃貸料		60,000	
小計		60,000	
3. 光熱費			
電気(2017/4～2018/3)		96,188	
水道(2017/4～2018/3)		20,239	
インターネット(2017/4～2018/3)		75,120	
小計		191,547	
4. 固定資産税		14,700	
小計		14,700	
5. 雑費			
経常支出の合計(イ)			266,247
経常収支差額(ア-イ) 当期正味財産増減額			△ 91,121

前期繰越正味財産額

685,541

次期繰越正味財産額

594,420

平成30年度 財産目録

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 沢内伯楽
(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	0		
ゆうちょ銀行普通預金	558,906		
JA銀行	35,514		
流動資産合計			594,420
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
投資その他の資産計	0		
固定資産合計			0
資産合計			594,420
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計			0
2. 固定負債			
固定負債合計			0
負債合計			0
正味財産			594,420

平成30年度 貸借対照表

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人

沢内伯楽
(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	594,420		
未収金			
.....			
流動資産合計		594,420	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
車両運搬具			
什器備品			
.....			
有形固定資産計		0	
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア			
.....			
無形固定資産計		0	
(3) 投資その他の資産			
敷金			
〇〇特定資産			
.....			
投資その他の資産計		0	
固定資産合計		0	
資産合計			594,420
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0		
前受民間助成金	0		
.....			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
長期借入金	0		
退職給付引当金	0		
.....			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産	685,541		
当期正味財産増減額		△ 91,121	
正味財産合計			594,420
負債及び正味財産合計			594,420

中山間 地域フォーラム NO.5

中山間地域等直接支払制度



生命と人権と農業を守って60年

—岩手県西和賀町調査報告記—

福島大学客員教授

もりとも 守友 裕一

はじめに

—自分たちで生命を守った村と雪国農業—

西和賀町(2005年に沢内村と湯田町が合併)の活動実践に触れるのは何年ぶりであろうか。

遙か昔のことであるが、学生時代に農業・農村問題にかかわって必ず読むべき本としてあげられていたのが、大牟羅良『ものいわぬ農民』(1958年岩波新書)、今井幸彦『日本の過疎地帯』(1968年岩波新書)とならび、菊地武雄『自分たちで生命を守った村』(1968年岩波新書)であった。沢内村について知ったのはこの菊地の本であった。

後になって、太田祖電他『沢内村奮戦記』(1983年あけび書房)、及川和男『村長ありき—沢内村深沢辰雄の生涯—』(1984年新潮社)を読んで、沢内村の実践の奥深さを知ったのであった。

私自身が1986年冬、沢内村の太田祖電村長にお会いしてお話をうかがい、それを『内発的発展の道』(農山漁村文化協会)に書いたのが1991年であり、また西和賀農協の佐々木寛組合長から雪国農業についての報告をうかがってからもう15年以上たっている。

だいぶ年数はたったが、沢内村と湯田町の生命を守り、雪国農業を発展させていこうとする姿勢は今でも強烈に印象に残っている。

西和賀への道

2018年12月1日午後、東北新幹線北上駅に集合。フォーラム側からの調査参加者は佐藤洋平、柴田寛、井原満明、小林和彦、守友裕一の5人。

北上線に乗り換え西へ向かう。しばらくの間、田圃地帯を走っていくが、しだいに奥羽山系の山ひだへ入っていく。紅葉の名所の錦秋湖はすでに木の葉が落ちて冬の景色であった。

西和賀町の玄関口である「ほっとゆた駅」に降りると、まわりはうっすらと雪をかぶっていた。駅には町議で、大野地区のまとめ役でもある高橋雅一さん(当



ビスケット(援助人)の家

フォーラム理事)が出迎えてくれ、さっそく駅北側にある旧川尻営林署の事務所を改修して作った「ビスケットの家」(援助人の家)へ向かった。

社会福祉法人潤沢会の活動

同法人理事の高橋典成さんからお話をうかがった。潤沢会は障がいを持っている人でも地域で安心して暮らせる条件を作るため、2002年から、障がい者のための多機能型事業所(ワークステーション湯田・沢内)において、自立訓練(生活訓練)、就労継続支援、生活介護を行っている。具体的には、地域特性を活かした活動として、農作業や農産加工などを行っている。また共同生活援助事業、短期入所事業等も行っている。現在の利用者は58人、職員は47人である。

今後は、現在のような障がいのある方を集めて、決まった仕事をやればよいということだけではなく、リスクを背負いつつも色々な事業展開を考えている。西和賀町の高齢化率は47%であり、介護の予防を考えて行く必要がある。そこで障がい者だけではなく高齢者全体の健康寿命の延伸のための施設として「援助人の家・元気一番館」を開所した。現在1階はグループホームとして使われており、2階に体力づくり、友達づくり、趣味

や色々なイベントに活用している。今年の町内の出生者数はわずか10人であり、子ども達を大切にすることは急務である。その意気込みを伝える新施設であると感じた。

建物は河岸の崖際に立っているため入口は2階であるが、1階は従来の客室をそのまま活かして宿泊できるように考えている(2000円/泊)。さらにそこから和賀川へのアプローチ道を整備し、カヌー、カヤックの教室を開きたいなど多面的な活用の構想を練っている。

西和賀さわうち病院と大野地区の活動

その後大野地区へ移動し、まず「町立西和賀さわうち病院」を見学した。休日であったが、幸い病院事務長さんがおられて案内をして下さった。

2014年に新築した総合病院である。これまでの老人医療費無料化、乳児死亡率ゼロなどの生命を守る運動のシンボルにふさわしい立派な病院である。深澤辰雄元村長の胸像も待合室におかれていた。町内の森林組合から提供される杉の間伐材を燃料として、館内暖房、給湯、ロードヒーティングなどに活用している。巨大な除雪機械も配置されていた。

なお病院の向かいには潤沢会の「ワークステーション湯田・沢内」が立地し、活動の拠点となっている。

そのあと大野地区の「もっこり会館」などを見学しながら大野営農組合の活動、中山間地域等直接支払事業の実績、NICEの活動のフィールドなどについて説明を受けた。

さらにNICEの大野集落での活動の拠点として改修した古民家「伯楽」で、これまでの活動結果の展示記録を見せてもらった。この「伯楽」をこれから食肉低温加

工の場としていく予定の佐々剛さん(現在は盛岡市在住)から、今後の事業展開の計画についてお話をうかがった。

その後、湯田牛乳公社の売店「結ハウス」で特製のプレミアム湯田ヨーグルトなどを購入して、ほっとゆだ駅へ向かった。駅前の「湯夢(ゆめ)プラザ」で近年評判の当地のそばを賞味して、全行程を終了した。

これから

高齢化など西和賀町の抱える課題は多いが、同時にこれまでの雪国農業、生命を守る活動の延長線上に、営農組合・農産加工、健康・高齢者福祉といった取り組みを基礎として、NICEによる外との交流、青少年への支援など、課題への色々な挑戦の動きも起きてきている。

地域の底流にある課題を、目前の小さなしかし実現可能な目標をかかげて少しずつ解決していくことが望まれる。そのために、今後フォーラムとの交流、特にフォーラム側の若手、中堅のアイデア・行動による刺激によって、地域の受容力・内発力が強まり、地域が元気になっていくことを期待したい。

提供いただいた資料

☆社会福祉法人潤沢会 ワークステーション湯田・沢内「和と風と」No.61、64

☆特定非営利活動法人 輝け「いのち」ネットワーク「『いのちの灯』建35周年のあゆみ—老人医療費無料化発祥の地記念碑—」2018.10.14

☆大野自治協議会「大野再生&活性化計画—地域の連携による山の幸発掘活用プロジェクト—」平成22年3月



大野営農組合の活動について話を聞く



地域の方々とフォーラムからの参加者(「伯楽」の前で)